

摘 錄

会議名 令和 7 年度第 4 回刈谷市文化財保護審議会
日 時 令和 8 年 1 月 27 日（火） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 00 分
場 所 刈谷市歴史博物館講座室
出席者 委員：山田孝、松原啓治、川崎みどり、神谷真佐子（敬称略）
事務局：石川領子（文化振興監兼文化観光課長）、鈴木隆（歴史博物館長）、
新田温子（歴史博物館館長代理）、鵜飼堅証（歴史博物館専門員）、永井
優香子（歴史博物館学芸員）、野村啓輔（歴史博物館学芸員）

内 容

1 協議事項

（1）県内研修の振り返りについて

（事務局） 12 月 26 日に実施した。午前は県立芸術大学保存修復研究所で、市指定文化財「地獄の絵巻物」の修復見学と、文化財修復の基礎についてレクチャーを受けた。午後は愛知県立陶磁美術館において「This is SUEKI」展を観覧した。

（A 委員） 興味深く、面白かった。保存修復はとても大変で、金額がかさむ理由もよくわかった。陶磁美の展覧会は、時代ごとに分けられた展示で良かった。

（B 委員） 修復現場は原則見学する機会がない。気候変動や継承者不足により、修復の材料や道具が手に入れづらい状況になってきてしまっているのは、大変なことと思う。

（C 委員） 陶磁美の須恵器展は、名古屋市博物館で装飾須恵器が大きな展覧会で出て以来、30 年ぶり程ではないかと思う。見ごたえのある展示でよかったです。

（D 委員） 参加できなかったが、安城市歴史博物館の「聖徳太子絵伝」の修復現場を見たことがある。糊ひとつとっても 2 年掛けて作らなければならない、と驚いたことを記憶している。

（E 委員） 修復状況が見学できたのは良かった。文化財が簡単に直せるものではない事を周知するようにしてほしい。

陶磁美術館は、県立であることからも、質量ともに充実していた。韓国から日本に伝わった朝鮮の須恵器は展示されていたが、可能であれば、韓国に今なお伝来する須恵器もあると良いなと思った。

（2）文化財防火訓練について

(事務局) 今年度は諸事情により中止したが、来年度の会場もぜひ永福寺で行いたいと考えている。

(A委員) 鎌倉街道関係で出てくる重要な寺院だと思うので、ぜひそうしてほしい。

(B委員) 同じ池大雅木額を持つ観音寺も付近にある。木額が堂外に掛けたり、無住の寺でもあることから、指定文化財の保管として気にしなければならないと感じている。今はどうなっているか。

(事務局) 令和7年8月に一度確認をしている。堂外に掛けたままではあるが、塗直しをしたのか、複製を作成したのか、文化財図録の掲載写真からは状態が変更されている。今年度は文化財防災台帳の作成で、市内寺院に確認調査に行く予定なので、その際にも留意して確認する。

2 事務連絡

(1) 次回日程について

(事務局) 後日、紙面での日程調整を行う。《委員了承》

以上